



## 一橋大学1年 「君の「所感」

3月10日から3月22日までの平日11日間、IISIAインターシップに参加した。

インターンシップは、総務・広報・PR部での活動と調査部での活動の大きく二つに分かれていた。それとは別に、朝のミーティング、ダウンロード教材の収録傍聴にも全日程を通して参加した。

まず、総務・広報・PR部では「メルマガ・デザイン研究」を命じられた。数ある投資マガジンとIISIAとの比較をして、改善点を見出すというものである。調査の結果分かったのは、IISIAのメルマガはデザインに関して言えば、他の読者を大量に抱えているメルマガに比べて、ひけをとらず、むしろ優れているということである。このメルマガをさらに良いものにするために、ブログを小分けにして載せたり、デイリーレポートの一部を載せたりするという提案を行った。

調査部での課題は、朝のデイリーニュースの中で指定されたことについて調べること、もしくは指定記事の翻訳、かつ週間を通して「医療過誤」について調べることであった。調査部での仕事においては、一次情報にあたることが重要視された。公的な機関が出している文書やシンクタンクが出している文書などである。菊地研究員から数々の指導を受けながら進めていったが、今後、大学でのレポート作成等においても役立つスキルを体得できたと思う。また英語の翻訳は、大学受験のように曖昧な表現では、人に伝える際に支障がでることを教えていただいた。

IISIAのインターンシップのすぐれているところを挙げたい。まず、会社の現状をリアルに感じさせてくれるところである。ミーティングの際、インターンの自分にも本物の資料が配布された時には、正直、驚いた。顧客が何人で、昨日一日で何人が教材を買い、明日明後日の広告で何をしなければならぬかが真剣に議論されている姿を拝見することで、社会で生きることの「真実」を肌で感じることができた。机上の学問では学べない、まさに実学である。

また社員の方々が気を遣ってくださったおかげで集中して課題に取り組むことができた。代表も毎回の収録現場につれていってくださったり、声をかけてくださったりとインターン生としてはありがたい現場であったと思う。こういった強みは、今後も続けていくべきことである。

さらにピザ会やゲメインシャフト懇親会でごちそうをいただいたり、お話を聞かせていただいたりと、身も心も満たされる思いであった。(横浜では生まれて初めてフォアグラを食べさせていただいた)



総じて言えば、満足度の高いインターンシップであった。特に情報リテラシーを活用して仕事をされている方々を間近で見ることができたのは、今後の自分のビジョンにも影響を与える気がする。HSIAでインターンシップの機会を与えてくださった皆様方に感謝したい。

以上